

# 2011年9月期 決算説明会

(2012年3月期 第2四半期)

2011年12月2日

株式会社 西日本シティ銀行



## I 業績の概要

1. 2011年9月期業績	
①単体損益	3
②連結損益	4
③単体開示債権	5
④連結自己資本比率	6
⑤単体有価証券	7
2. 2012年3月期業績予想	
①単体損益	8
②連結損益	9

## II 中計 New Stage 2011 ~元気よく~

1. 中計の概要	
①フレームワーク	11
②2つのコンセプト	12
2. コーポレート分野の取組み	
①企業まるごとサポート	13
②事業性融資	14
③国際ビジネス	15
3. リテール分野の取組み	
①人生まるごとサポート	16
②個人ローン	17
③預り資産	20
4. 生産性の向上	22

## III 直面する課題と戦略

1. 銀行共通の課題	24
2. 地元地域の課題	25
3. 当行独自の課題	26

# I 業績の概要

# 1. 2011年9月期業績

## ①単体損益

中間純利益は110億円(前年同期比△352億円、分割子会社解散要因を除くと△2億円)となった。

### 単体損益

	11/9期		10/9期
		前年同期比	
コア業務粗利益 [注1]	599	△ 9	608
資金利益	528	△ 12	540
役務取引等利益	66	3	63
その他	4	0	4
経費 △	367	△ 1	368
コア業務純益 [注2]	232	△ 8	240
有価証券関係損益 [注3]	△ 19	△ 2	△ 17
信用コスト [注4] △	15	△ 3	18
その他の臨時損益・特別損益	14	30 ②	△ 16
税引前中間純利益	211	23	188
法人税・住民税・事業税 △	0	0	0
法人税等調整額 △	100	375	△ 275
中間純利益	110	△ 352	462
(うち 分割子会社解散要因)	(-)	(△ 350) ①	(350)

[注1] 業務粗利益－債券等関係損益

[注2] コア業務粗利益－経費

[注3] 債券等関係損益＋株式等関係損益

[注4] 一般貸倒引当金繰入額＋不良債権処理損失額－引当金戻入益〔与信関連〕－償却債権取立益

単位：億円

#### 前年同期比減益の主な要因

##### ① 分割子会社解散要因の剥落 前年同期比 △350億円

10/9月期の中間純利益には、分割子会社の解散に伴う繰延税金資産の計上等によるプラス影響350億円(法人税等調整額の減少366億円－信用コストの増加16億円)が含まれていた。

#### 前年同期比増減が大きい項目

##### ② その他の臨時損益・特別損益 前年同期比 ＋30億円

いくつかの特殊要因により増加した。

- 11/9月期の特殊要因  
睡眠預金雑益計上基準の変更 　　　　　　＋22億円
- 10/9月期の特殊要因(資産除去債務  
会計基準適用影響△6億円)の剥落 　　　　　　＋6億円

# 1. 2011年9月期業績

## ②連結損益

中間純利益は118億円(前年同期比△350億円、分割子会社解散要因を除くと横ばい)となった。

### 連結損益

単位:億円

	11/9期	前年同期比	うち 当行単体	10/9期
コア業務粗利益 [注1]	678	△ 11	△ 9	689
資金利益	564	△ 15	△ 12	579
役務取引等利益	105	7	3	98
その他	8	△ 2	0	10
営業経費 △	427	0	0	427
コア業務純益 [注2]	263	△ 9	△ 8	272
有価証券関係損益 [注3]	△ 19	△ 2	△ 2	△ 17
信用コスト [注4] △	20	△ 5	△ 3	25
その他の経常損益・特別損益	28	34 ②	31	△ 6
税金等調整前中間純利益	239	27	23	212
法人税・住民税・事業税 △	8	2	0	6
法人税等調整額 △	101	374	375	△ 273
少数株主利益 △	10	0		10
中間純利益	118	△ 350	△ 352	468
(うち 分割子会社解散要因)	(-)	(△ 350) ①	(△ 350)	(350)

[注1] 業務粗利益－債券等関係損益

[注2] コア業務粗利益－経費〔営業経費から臨時処理分を除く〕

[注3] 債券等関係損益＋株式等関係損益

[注4] 経常損益中の貸倒償却引当費用－特別損益中の引当金戻入益〔与信関連〕－償却債権取立益

#### 前年同期比減益の主な要因

① 分割子会社解散要因の剥落 前年同期比 △350億円

10/9月期の中間純利益には、分割子会社の解散に伴う繰延税金資産の計上等によるプラス影響350億円(法人税等調整額の減少366億円－信用コストの増加16億円)が含まれていた。

#### 前年同期比増減が大きい項目

② その他の経常損益・特別損益 前年同期比 +34億円

いくつかの特殊要因により増加した。

- ▶ 11/9月期の特殊要因  
睡眠預金雑益計上基準の変更 +22億円
- ▶ 10/9月期の特殊要因(資産除去債務  
会計基準適用影響△6億円)の剥落 +6億円

## 1. 2011年9月期業績

### ③単体開示債権

開示債権は1,613億円(11/3月末比+185億円)、開示債権比率は3.14%(11/3月末比+0.33%)となった。実抜計画の履行状況のモニタリング結果に基づく債務者区分の見直しが、開示債権増加の主たる要因。

金融再生法開示債権				単位: 億円
	11/9末	11/3末比	(うち 11/3末 実抜計画先)	11/3末
開示債権 A	1,613	185	(182)	1,428
破産更生債権等	253	△ 22	(5)	275
危険債権	1,122	76	(29)	1,046
要管理債権	237	132	(147)	105
正常債権	49,667	407		49,260
総与信 B	51,280	592		50,688
開示債権比率 A÷B	3.14%	0.33%		2.81%

[注] 2011年3月末は分割子会社合算ベース。

# 1. 2011年9月期業績

## ④連結自己資本比率

連結自己資本比率は10.62%(11/3月末比+0.01%)、Tier I 比率は7.70%(11/3月末比+0.21%)となった。

### 連結自己資本比率

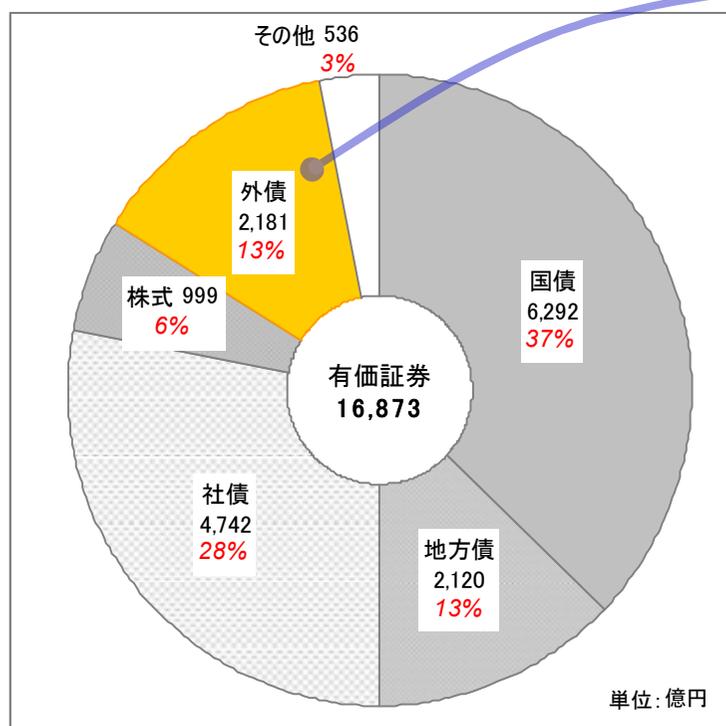
		11/9末		11/3末
			11/3末比	
		単位: 億円		
Tier I	A	3,237	97	3,140
	資本金+資本剰余金	1,760	0	1,760
	利益剰余金	1,240	77	1,163
	少数株主持分	277	△ 3	280
	社外流出予定額	19	△ 20	39
	その他	△ 20	3	△ 23
Tier II	B	1,263	△ 79	1,342
	土地再評価差額	226	0	226
	一般貸倒引当金	241	△ 20	261
	負債性資本	795	△ 59	854
控除項目	C △	36	△ 1	37
自己資本	D=A+B-C	4,464	19	4,445
リスクアセット	E	42,003	118	41,885
自己資本比率	D÷E	10.62%	0.01%	10.61%
Tier I 比率	A÷E	7.70%	0.21%	7.49%

# 1. 2011年9月期業績

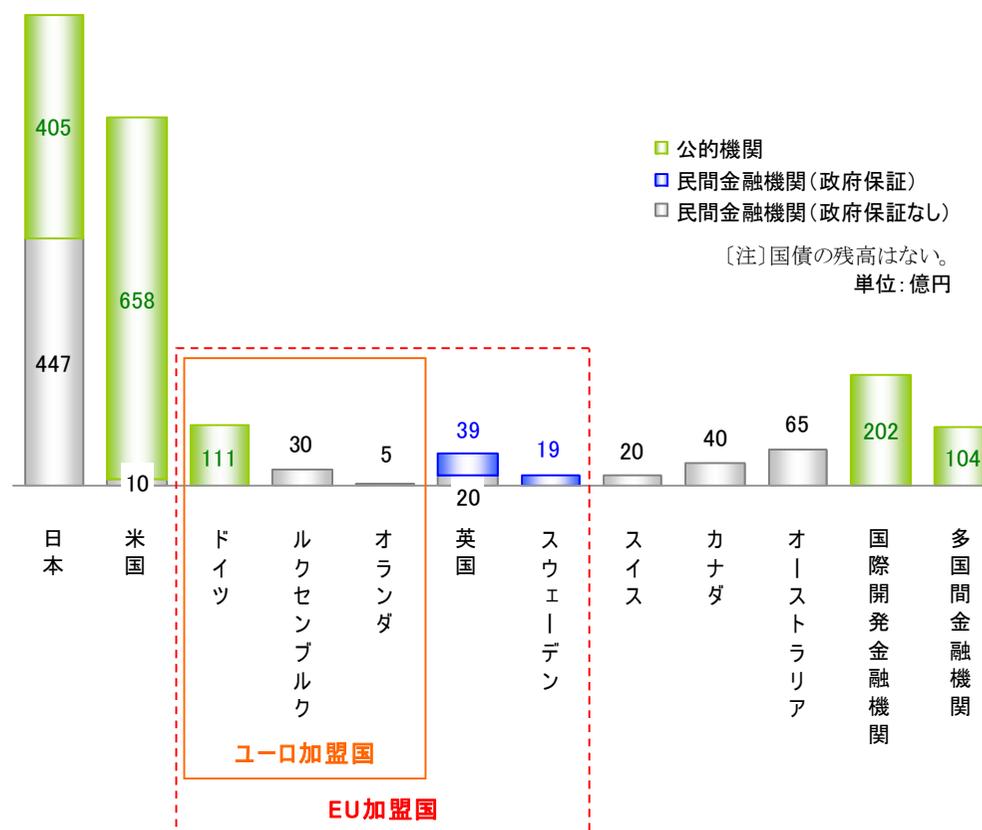
## ⑤単体有価証券

有価証券残高は16,873億円(11/3月末比+12億円)となった。このうち外債の残高は2,181億円。

有価証券残高の内訳(11/9月末)



外債の発行体国別内訳



## 2. 2012年3月期業績予想

### ①単体損益

当期純利益は200億円(前期比△325億円、分割子会社解散要因を除くと+25億円)を見込む。

#### 単体損益

	単位: 億円			11/3期 実績
	12/3期 予想	前期比	期初予想比 〔注5〕	
コア業務粗利益〔注1〕	1,195	△ 17	△ 6	1,212
資金利益	1,049	△ 23	△ 9 ②	1,072
役務取引等利益	136	7	2	129
その他	9	0	1	9
経費△	742	△ 12	△ 1	754
コア業務純益〔注2〕	453	△ 4	△ 5	457
有価証券関係損益〔注3〕	△ 29	9	△ 14 ③	△ 38
信用コスト〔注4〕△	65	11	△ 35 ④	54
その他の臨時損益・特別損益	△ 4	55	4	△ 59
税引前当期純利益	353	48	18	305
法人税・住民税・事業税△	0	0	0	0
法人税等調整額△	152	372	18	△ 220
当期純利益	200	△ 325	0	525
(うち 分割子会社解散要因)	(-)	(△ 350) ①	(0)	(350)

〔注1〕 業務粗利益－債券等関係損益

〔注2〕 コア業務粗利益－経費

〔注3〕 債券等関係損益＋株式等関係損益

〔注4〕 一般貸倒引当金繰入額＋不良債権処理損失額－引当金戻入益〔与信関連〕－償却債権取立益

〔注5〕 2011年3月期決算説明会(2011年6月10日開催)において公表した予想値との比較。

#### 前期比減益の主な要因

- ① 分割子会社解散要因の剥落 前期比 △350億円  
11/3月期の当期純利益には、分割子会社の解散に伴う繰延税金資産の計上等によるプラス影響が350億円含まれていた。

#### 期初予想(6月説明会)からの主な変更点

- ② 資金利益 期初予想比 △9億円  
上期は、概ね予想どおり(期初予想比△1億円)となった。下期は、貸出金利回りが想定より厳しい状況を織り込むこととした。
- ③ 有価証券関係損益 期初予想比 △14億円  
上期は、株式の償却等により期初予想比△4億円となった。下期においても、先行き不透明な市場動向を織り込むこととした。
- ④ 信用コスト 期初予想比 △35億円  
上期は、ランクダウンの減少を主因に期初予想比△35億円となった。下期は、先行き不透明な経済情勢を踏まえ、期初予想どおりとした。

## 2. 2012年3月期業績予想

## ②連結損益

当期純利益は206億円(前期比△327億円、分割子会社解散要因を除くと+23億円)を見込む。

### 連結損益

単位:億円

	12/3期 予想	前期比	うち	11/3期 実績
			当行単体	
コア業務粗利益〔注1〕	1,355	△ 15	△ 17	1,370
資金利益	1,123	△ 26	△ 23	1,149
役務取引等利益	216	14	7	202
その他	16	△ 2	0	18
営業経費 △	863	△ 15	△ 18	878
コア業務純益〔注2〕	515	△ 6	△ 4	521
有価証券関係損益〔注3〕	△ 29	14	9	△ 43
信用コスト〔注4〕 △	87	17	11	70
その他の経常損益・特別損益	19	54	47	△ 35
税金等調整前当期純利益	394	52	48	342
法人税・住民税・事業税 △	10	4	0	6
法人税等調整額 △	161	377	372	△ 216
少数株主利益 △	16	△ 2		18
当期純利益	206	△ 327	△ 325	533
(うち 分割子会社解散要因)	(-)	(△ 350) ※	(△ 350)	(350)

### 前期比減益の主な要因

※ 分割子会社解散要因の剥落 前期比 △350億円  
11/3月期の当期純利益には、分割子会社の解散に伴う繰延税金資産の計上等によるプラス影響が350億円含まれていた。

〔注1〕 業務粗利益－債券等関係損益

〔注2〕 コア業務粗利益－経費〔営業経費から臨時処理分を除く〕

〔注3〕 債券等関係損益＋株式等関係損益

〔注4〕 経常損益中の貸倒償却引当費用－特別損益中の引当金戻入益〔与信関連〕－償却債権取立益

## **Ⅱ 中計 New Stage 2011 ～元気よく～**

# 1. 中計の概要

## ①フレームワーク

### 目指す銀行像

国内トップレベルのサービスを地元で提供し  
お客さまとともに栄える九州No.1バンク

計画期間：2011年4月～2014年3月

### 中期経営計画「New Stage 2011 ～元気よく～」

“時代の変化に対応した総合金融サービス業への進化”と“徹底した生産性向上”

西日本シティ銀行

#### 進むべき方向性

##### 「お客さま第一主義」

- サービスの専門性向上
- サービスの利便性向上

##### 「収益力の強化」

- 顧客基盤の拡大
- グループ総合力の強化
- サービス向上と  
経営合理化の両立

##### 「地域貢献」

- 地元のお取引先の育成
- 元気で環境豊かな  
地域社会づくり

#### 主要施策

##### 6つの改革

##### 経営改革

- |           |        |
|-----------|--------|
| 意識・行動改革   | サービス改革 |
| オペレーション改革 | 人事改革   |

##### コスト構造改革

##### 機能強化戦略

- システムの共同化移行
- リスク管理の高度化

##### グループ戦略

- グループ会社のサービス向上・経営合理化

##### 地域との共栄

- |         |          |
|---------|----------|
| ■地場産業育成 | ■環境配慮    |
| ■知的貢献   | ■歴史・文化活動 |

#### 注力する分野

##### コーポレート

- 事業性融資
- ソリューション  
成長分野／国際分野  
環境分野／観光分野

##### リテール

- 個人ローン  
住宅ローン・消費者ローン
- 預り資産

将来の収益基盤づくり

顧客基盤拡大

有価証券運用

地元のお客さま

## 1. 中計の概要

### ②2つのコンセプト

中計のコンセプトは、「時代の変化に対応した“総合金融サービス業”への進化」と「徹底した生産性向上」の2つ。

厳しい環境を乗り越え、国際化時代に対応していくには…  
強靱な経営基盤の構築に取り組むべき。

#### 当行が進むべき方向性 = 中計のベース

強靱な経営基盤を構築するために

- ▶ 収益機会を拡大する。
- ▶ コストを削減する。

「収益機会の拡大」と「コスト削減」を同時に実現するために

- ▶ 経営陣の強力なリーダーシップのもと、  
ビジネスモデルを見直す。

#### Concept-1 時代の変化に対応した“総合金融サービス業”への進化

お客様のライフステージから生じるさまざまなニーズに対し、  
お客様目線に立った最適なサービスを提供する。

企業まるごとサポート

人生まるごとサポート

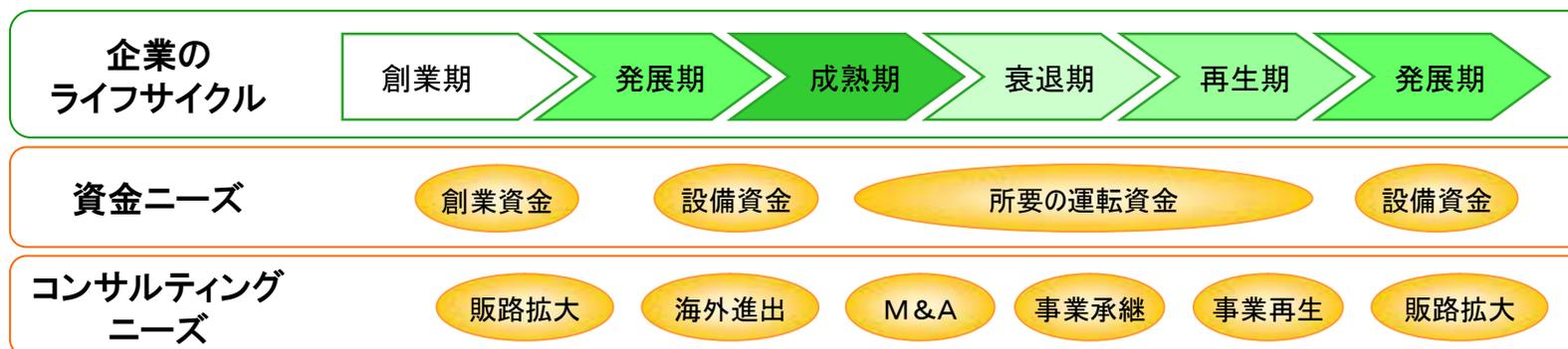
#### Concept-2 徹底した生産性向上

サービス向上と経営合理化の両立により生産性を向上させる。

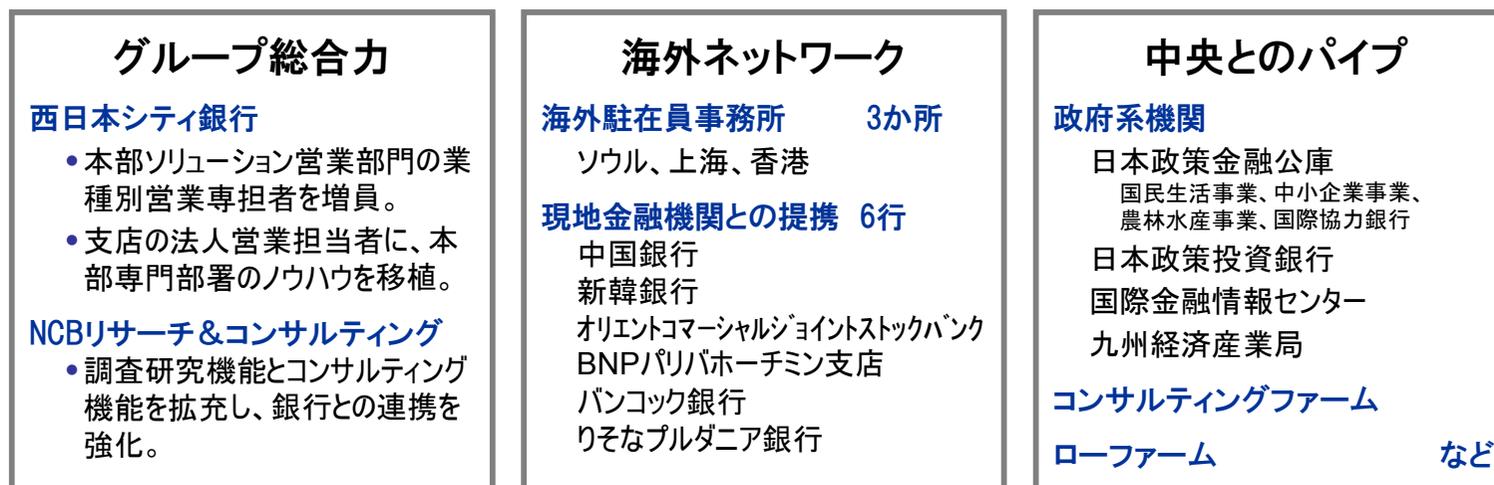
## 2. コーポレート分野の取組み

### ① 企業まるごとサポート

企業・事業者のお客さまに対しては、グループ内のシンクタンクや中央・アジアとの強力なパイプを最大限に活かし、ライフサイクルの各段階に応じた総合金融サービスを提供する「企業まるごとサポート」を展開。



### 企業まるごとサポート



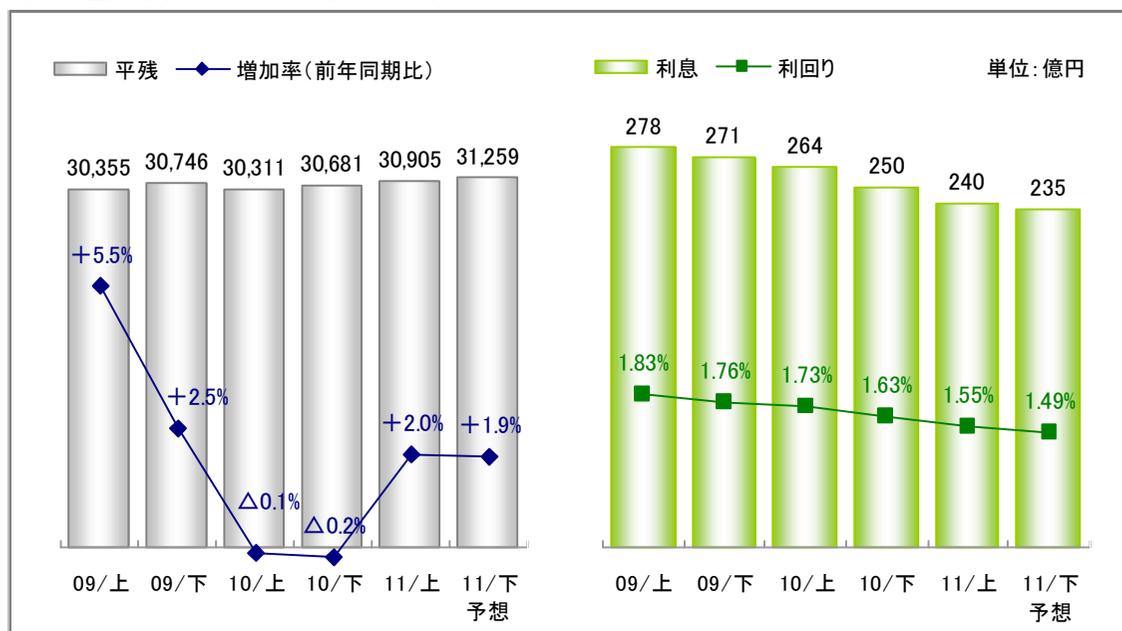
## 2. コーポレート分野の取組み

### ②事業性融資

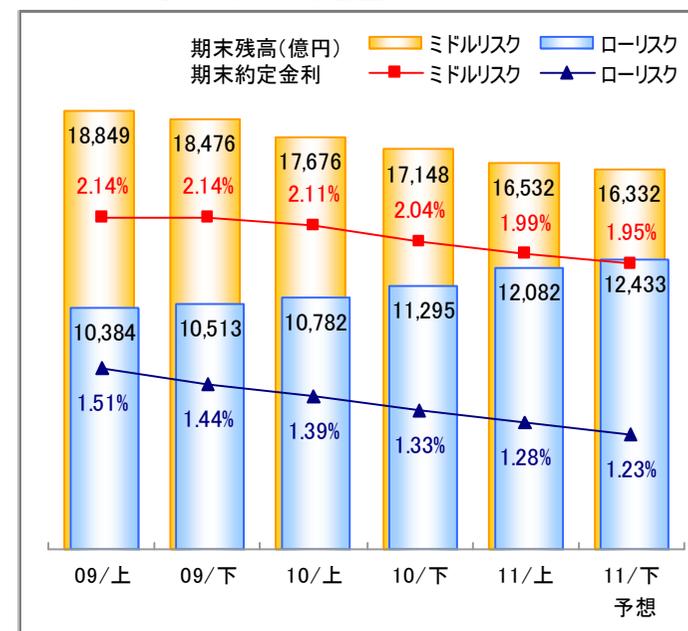
事業性融資の平残は、11/上期において前年同期比+2.0%となった。11/下期は前年同期比+1.9%を見込む。

今後は、ミドルリスク先への取組みを強化する。

事業性融資の平残・利息・利回り



格付水準別の残高・約定金利



〔注〕 格付1～9の一般債権(地公体を除く)。  
ミドルリスク先…5～9格、ローリスク先…1～4格

本部ソリューション営業部門の業種別営業専担者

	医療	農業・環境	国際	その他	計
現在	17名	3名	7名	9名	36名
11/3月末比	+7名		+1名		+8名

成長分野を拡充

## 2. コーポレート分野の取組み

### ③国際ビジネス

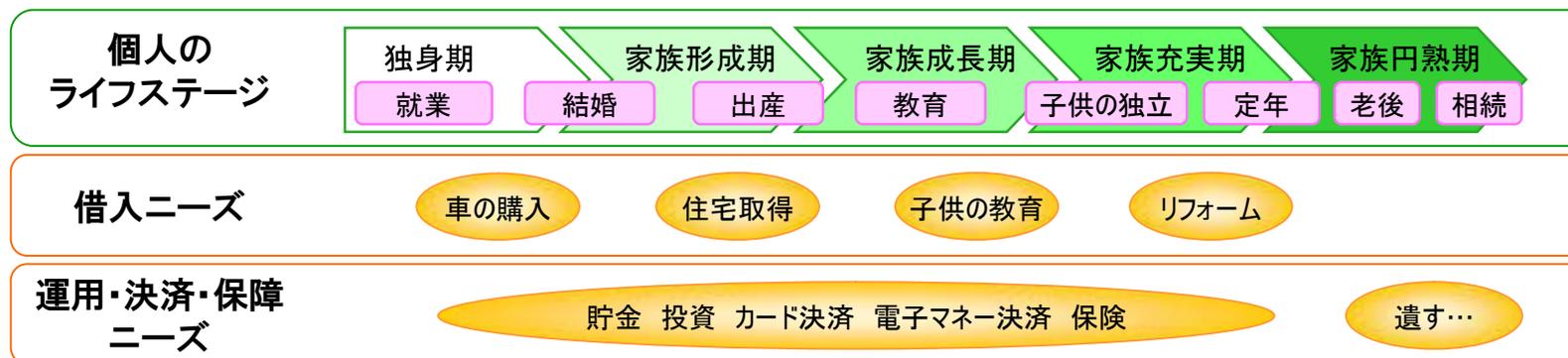
中央・アジアとの強力なパイプを活かし、お客さまの国際ビジネスをサポート。

お客さまのニーズ	中央・アジアとの強力なパイプを活かした商品・サービス
<p><b>海外進出のための 情報収集</b></p>	<p>アジア各国の経済動向などに関するセミナー            中国 [09/11月、10/12月、11/12月] <span>中国銀行と連携</span>            台湾 [10/11月] <span>台湾経済部と連携</span>            ベトナム [08/2月]</p> <p>外国企業との商談会            アジア環境ビジネス商談会 [11/10月] <span>北九州市・九州経済産業局等と共催</span>            日中ものづくり商談会@上海 [10/9月、11/9月] <span>中国のビジネスマッチング企業と共催</span></p> <p>海外進出企業向けセミナー・交流会</p>
<p><b>貿易決済</b> (外国送金、信用状開設)</p>	<p>インターネットによる外国為替取引「NCB外為スーパーダイレクト」 [10/6月]            人民元建て貿易決済 [10/8月]            韓国ウォン建て送金 <span>新韓銀行と連携</span> [11/8月]</p>
<p><b>為替リスクヘッジ</b></p>	<p>リーブオーダー (値段等の条件を指定する“指値注文”) [10/4月]            レンジフォワード (売買レートを一定レンジ内に収めるオプション取引) [10/4月]            ハイブリッド型通貨オプション [11/5月]            通貨オプションの取扱い通貨拡大 [11/10月]            インターネットによる為替予約「NCBダイレクト為替予約」 [11/10月] <span>九州地銀初</span></p>
<p><b>海外事業の資金調達</b></p>	<p>ツー・ステップ・ローン <span>国際協力銀行と連携</span> [11/3月] <span>地銀初</span></p>

### 3. リテール分野の取組み

#### ①人生まるごとサポート

個人のお客さまに対しては、グループ内の証券会社・カード会社も活用し、ライフステージの各段階に応じた総合金融サービスを提供する「人生まるごとサポート」を展開。



#### 人生まるごとサポート

##### 利便性 いつでも

###### 土日営業拠点

- 11/3月末:28か所→14/3月末:50か所程度
- 土日祝日や平日15時以降もご利用いただける店舗・専門チャンネルを増設。

###### ダイレクトバンキング

- コールセンターが土日も、ローンの申込受付・相談受付・セールス、預り資産のセールスを実施。

##### 専門性

###### マネーアドバイザー

- 11/3月末:237人→14/3月末:280人程度
- 預り資産専担者「マネーアドバイザー」を増員。

###### 専門チャンネル

- 11/3月末:18か所→14/3月末:40か所程度
- ローンや保険の専門チャンネルを増設。

###### グループ会社

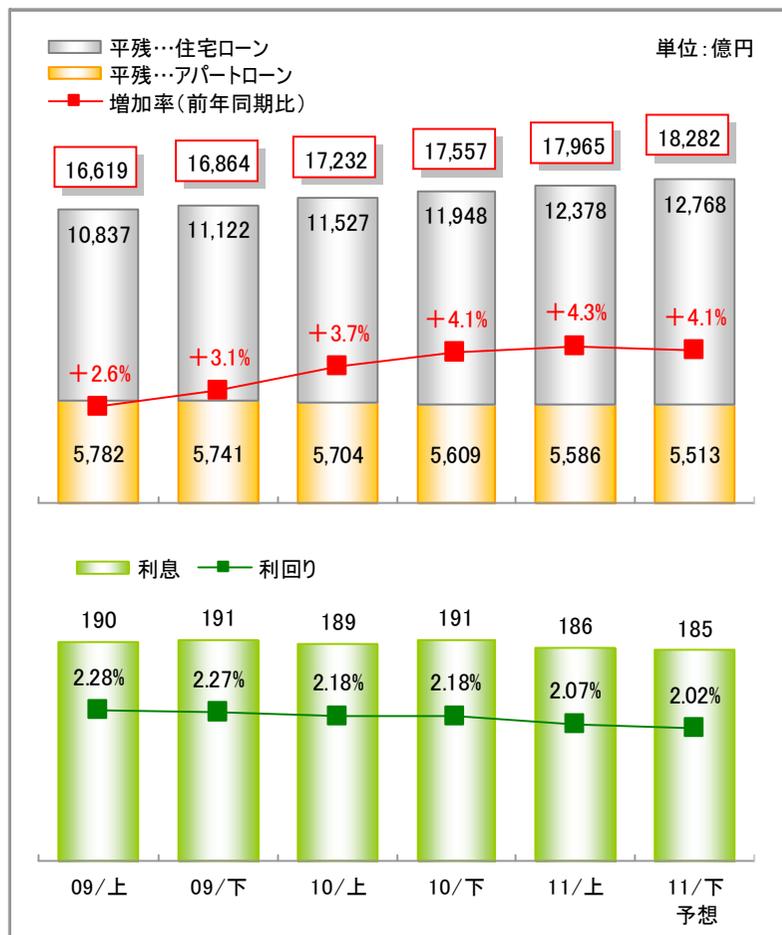
西日本シティTT証券、九州カード

### 3. リテール分野の取組み

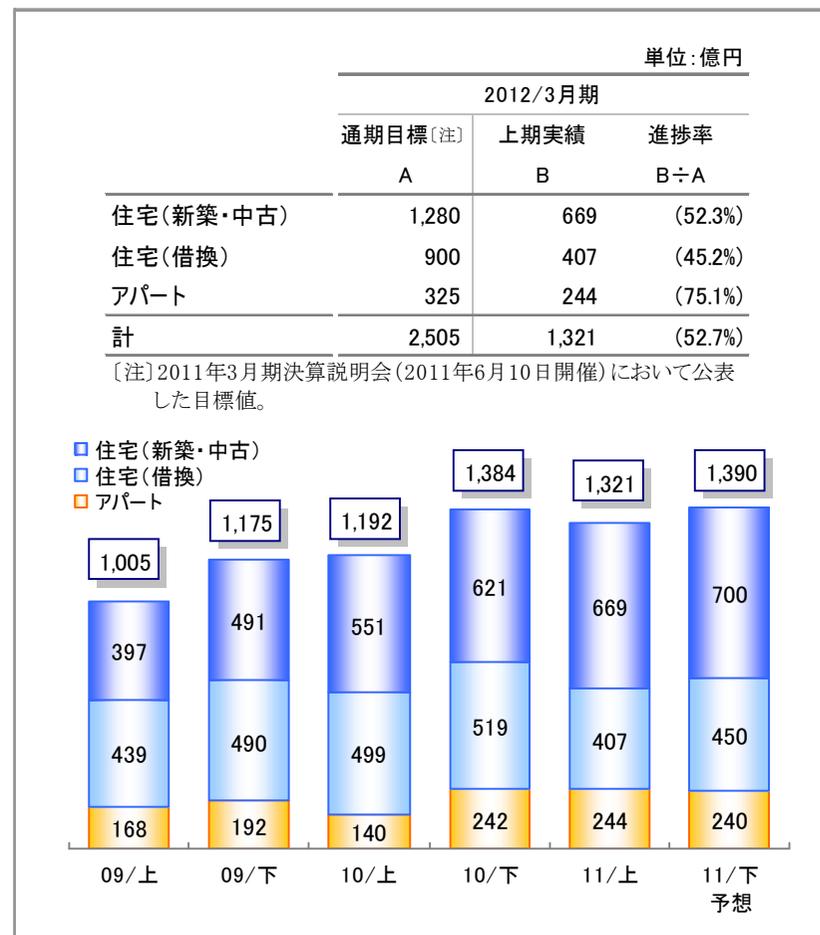
### ②個人ローン ～住宅ローン～

住宅ローンの平残は、11/上期において前年同期比+4.3%となった。  
11/下期は、前年同期比+4.1%を見込む。

住宅ローンの平残・利息・利回り



住宅ローンの実行額

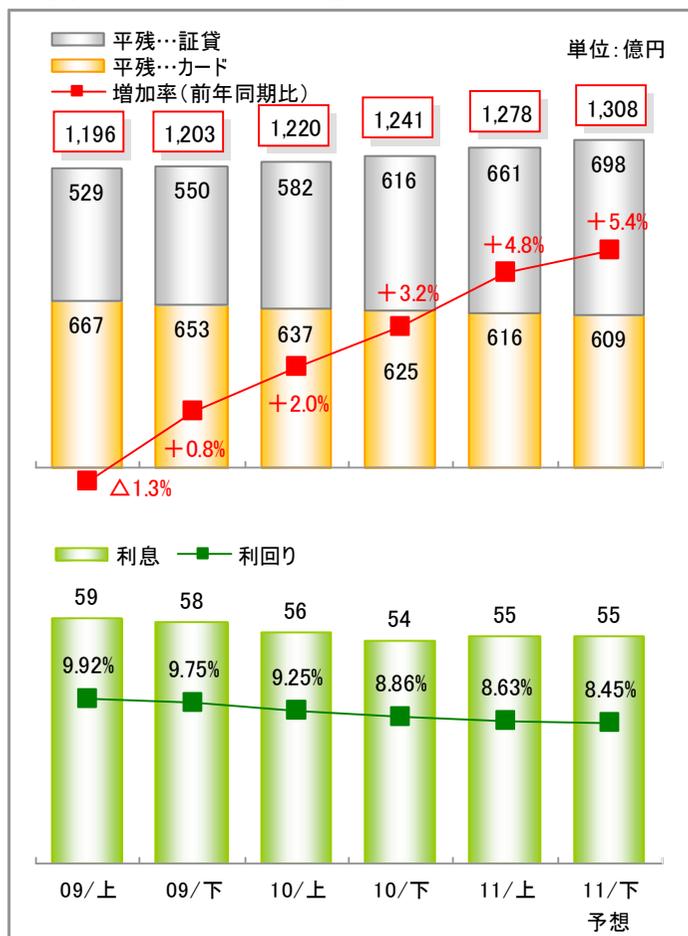


### 3. リテール分野の取組み

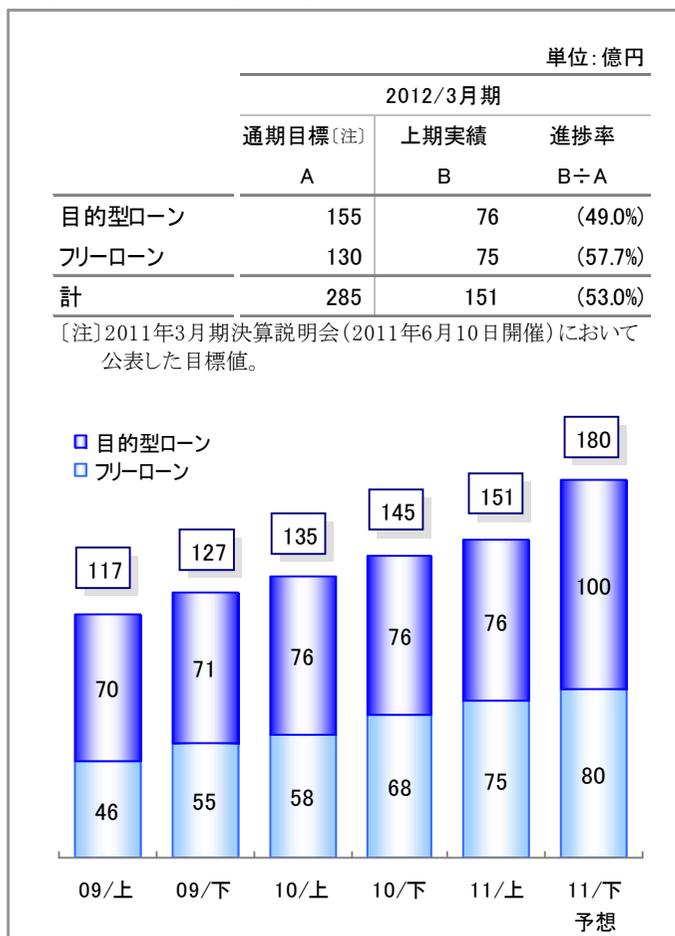
### ②個人ローン ～消費者ローン～

消費者ローン平残は、11/上期において前年同期比+4.8%となった。  
11/下期は、前年同期比+5.4%を見込む。

消費者ローンの平残・利息・利回り



消費者ローン(証貸)の実行額

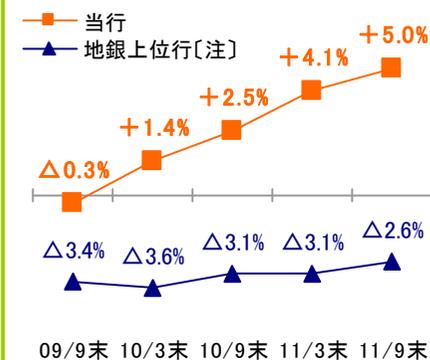


2012/3月期

	通期目標〔注〕 A	上期実績 B	進捗率 B÷A
目的型ローン	155	76	(49.0%)
フリーローン	130	75	(57.7%)
計	285	151	(53.0%)

〔注〕2011年3月期決算説明会(2011年6月10日開催)において公表した目標値。

消費者ローン残高の年間増加率



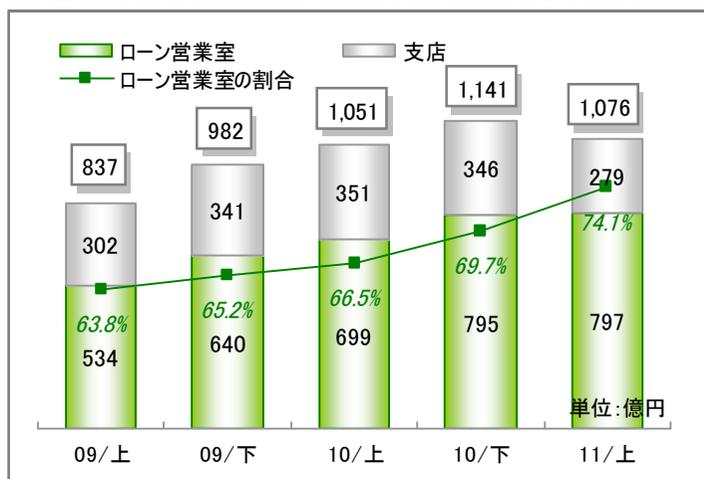
〔注〕11/3月末の単体総資産上位10行のうち、当行以外の各行計数の単純平均。  
出所: 各行決算短信

### 3. リテール分野の取組み

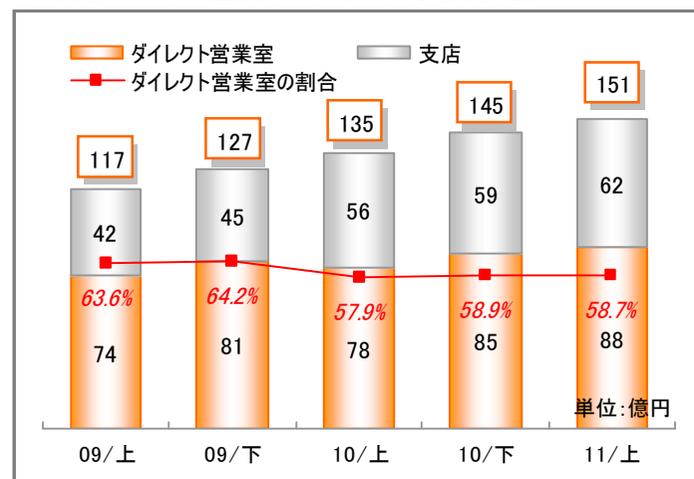
### ②個人ローン ～専門チャンネル～

ローン専門チャンネルを拡充し、専門性・利便性の高いサービスを展開する。

住宅ローン(新築・中古、借換)のチャンネル別実行額



消費者ローン(証貸)のチャンネル別実行額



#### ローン専門チャンネルの拡充

- 土日営業の「ローン営業室」に借換住宅ローンの専担者を配置

	現在	新たに配置 [11/6月、10月]
ローン営業室	15 か所	
うち借換専担者配置 (借換専担者)	7 か所 (24 名)	

- 土日営業の「ローンプラザ」を2か所に新設 [11/6月]

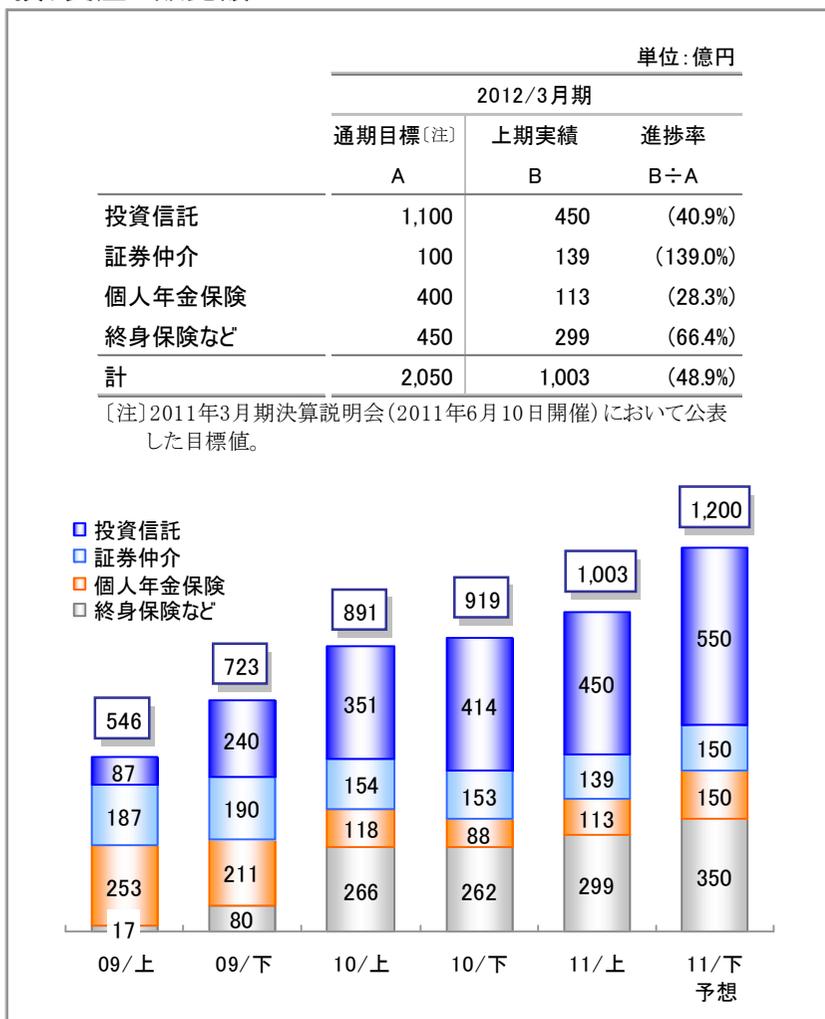
- 「ダイレクト営業室」が土日のローン営業を開始 [11/5月]

### 3. リテール分野の取組み

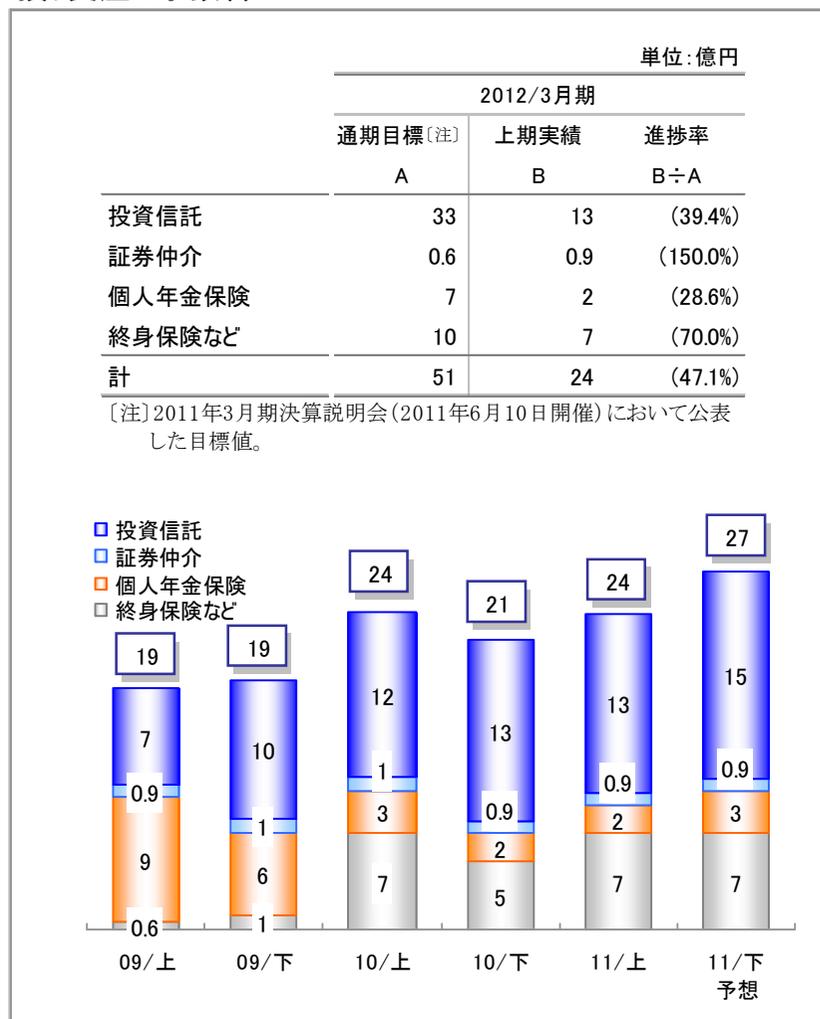
### ③ 預り資産

預り資産の販売額は11/上期において1,003億円となった。11/下期は1,200億円を見込む。

預り資産の販売額



預り資産の手数料



### 3. リテール分野の取組み

### ③預り資産

預り資産の専担者・専門チャンネルの拡充と、西日本シティTT証券との連携により、グループ全体で総合金融サービスを展開する。

銀行の預り資産専担者・専門チャンネルの拡充

■ 預り資産専担者 **マネーアドバイザー (MA)** を増員

11/3月末 237名 ⇒ 11/9月末 246名

■ インストアランチ「いつでもプラザ(現在12か所)」に **マネーアドバイザー (MA)** を配置 [11/7月]

■ 「NCBほけんプラザ」を新設 [10/12月] **地銀初**

西日本シティTT証券(NCTT証券)との連携による預り資産サービスの拡充

■ NCTT証券の営業エリアを福岡県内全域に拡大

	市町村	拠点の数・名称	
福岡県内 7か所	福岡市	2か所	本店営業部、天神支店
	北九州市	3か所	北九州支店、黒崎支店、小倉サテライトブース
	久留米市	1か所	久留米支店 [11/6月]
	飯塚市	1か所	飯塚支店 [11/11月]
			福岡県の <b>筑後・筑豊地区</b> に新たに進出

■ 当行劣後債をNCTT証券が販売

当行が発行する劣後債の全額(総額100億円、発行予定日12月28日)を、NCTT証券が販売する。 **地銀初**

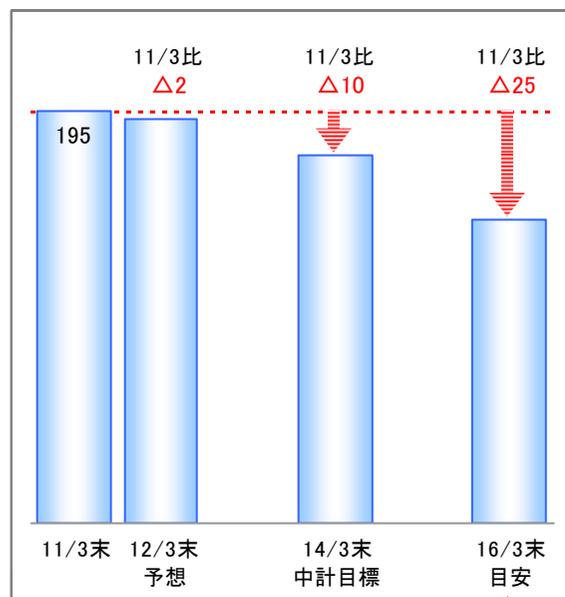
福岡県内全域に展開するNCTT証券のネットワークを活かし、主に地元の個人のお客さまの資産運用ニーズに対応。

## 4. 生産性の向上

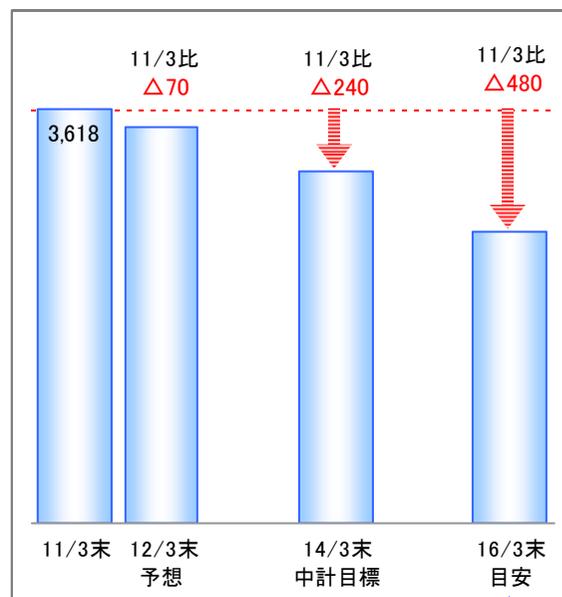
総合金融サービスの拡充と同時に、旧来型店舗の統廃合と人員の効率化を進めることで、生産性を向上させ、コストを削減する。

12/3月期の経費は全体で742億円(前期比△12億円)、機械化関連以外で654億円(前期比△10億円)を見込む。

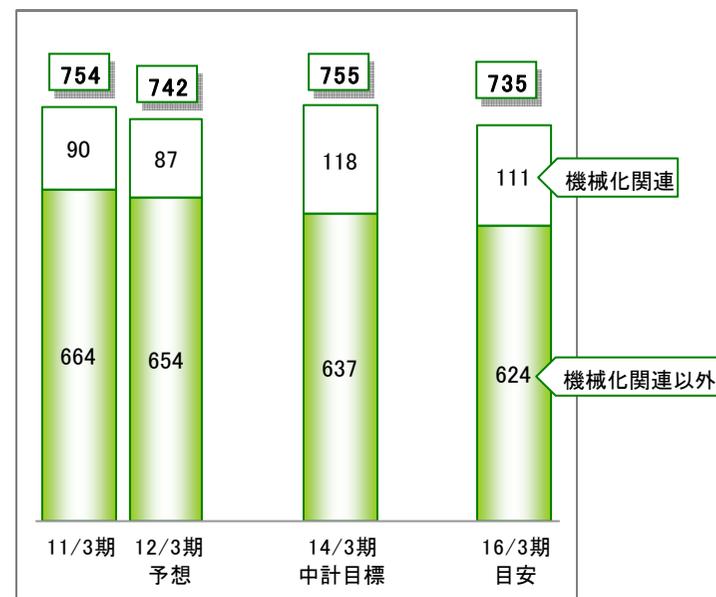
平日15時まで営業の旧来型店舗



行員数(出向者を除く)



経費



システム共同化(13/1月)以降、旧来型店舗の統廃合と人員の効率化を加速。

# Ⅲ 直面する課題と戦略

## 1. 銀行共通の課題

- 厳しい経営環境が続くことを見据えた備え
  - ⇒ 徹底した生産性向上による経営合理化
- 低金利政策下で資金利益を確保するための努力
  - ⇒ 消費者ローンへの注力、事業性融資におけるミドルリスク先への取組強化、預金調達利回りの抑制
- 将来懸念される金利リスクの回避
  - ⇒ 貸出金の固定金利・変動金利の構成最適化、債券金利リスクの抑制

## 2. 地元地域の課題

- 九州新幹線鹿児島ルート<sup>1</sup>の全線開通に伴う経済効果の最大化
- アジアの経済成長の取り込み
- 東日本大震災からの復興における製造拠点・農業生産地等としての役割発揮

⇒ 中央・アジアとの強力なパイプを最大限に活かしたソリューションビジネスの展開

### 3. 当行独自の課題

- 巡航高度への早期到達

- ⇒ トップレベルのビジネス分野のグループ全体への浸透、  
グループ総合力の向上、海外ネットワーク・中央とのパイプのさらなる活用

- システム共同化(13年1月)への万全な対応

- ⇒ 事務の堅確化、機械化関連費用以外の経費の削減

- 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載された事項の全部または一部は、予告なく修正または変更されることがあります。
- 本資料には将来の業績に係る記述が含まれていますが、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。  
将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。



ココロがある。コタエがある。

西日本シティ銀行